

久留宮綾乃

特攻隊員のメンタリティー

—志願と命令の狭間で—

## 要旨

本研究は、第二次世界大戦・太平洋戦争で体当たり攻撃を行った特攻隊の隊員の心情を志願と命令の側面から明らかにするものである。

特攻隊員の遺書には「笑って征きます」「天皇万歳」といった定型的な表現が多く見られるため、「天皇のために喜んで体当たりした」というイメージが形成されてきた。しかし、こうした表現やイメージは隊員の本心ではなく建前であり、より複雑な内面が存在したのではないかという仮説に立って検証を行った。

隊員の遺書の分析に加え、当時の価値観、志願か命令か、第三者から見た特攻隊員、特攻を行わなかった部隊、についても検討することでより正確な心情理解を試みた。遺書の分析では傾向分析だけでなく、人物背景などを含めた深掘り分析も行い、遺書には表出しなかった心情を確認することができた。

この結果から、本研究でテーマとして掲げていた「特攻隊員の心情」としては「天皇の為、国の為」も「大切な人たちの為」も本心であり、遺書には書いていないが「恐怖心や葛藤」もあり、その背景には心配をかけないためや検閲の影響など様々な事情、状況があり、遺書を一瞥しただけでは分からない複雑な心情が隠れていたと結論付けた。